

平成30年度第2回山形県農林水産技術会議 委員発言要旨

開催日時

平成31年2月1日（金）14:00～16:00

開催場所

山形県庁講堂

出席委員

大瀧 敦	委員	奥島 里美	委員	木村 直子	委員	今田 裕幸	委員
西澤 隆	委員	土屋 喜彦	委員	本多 親子	委員	宮武 恭一	委員
和田弥寿子	委員						

欠席委員

江頭 宏昌	委員	小野 広美	委員	梶本 卓也	委員	片岡 千春	委員
田村 勇次	委員	長谷川直秀	委員	早坂 和紀	委員	門間美千子	委員
本田香奈子	委員						

審議事項

1 農作物の奨励品種及び優良品種の改廃について

飼料作物「えん麦 エンダックス」を優良品種から除外。

委員：意見なし。

2 農業総合研究センター園芸試験場における研究開発の方向性について

現在、園芸試験場では附帯施設の整備を進めるとともに研究管理施設の整備についても予定していることから、平成25年度に本会議において整理した内容を発展させて、今後さらに取り組むべき研究開発の方向性を整理するため、意見を聴取する。第1回の意見を案に反映して再提案した。

委員：農研機構でも品種開発、スマート育種で動いている。育種効率化が入っていることを評価したい。

最近、北陸地域等の他の地域ブロックの研究機関等と意見交換する機会があった。新潟の西洋なしでサビダニによるモザイク症状。ももでの被害リスク。クビアカスカシバは関東でも果樹園で被害がみられている。他にも新たな病害虫が発生している。資料をみると新たな研究開発にぶどうのクビアカスカシバの記載もある。しっかりと取り組んでいただきたい。

委員：前回の会議で、山形の開発品種を守ってほしいと発言したが、早速反映していただき感謝したい。

最近、韓国の済州島でのかんきつの違法栽培に関するニュースを見た。国としてストップをかけることができたとのこと。農研機構の取り組みの成果である、と先程聞いた。

酒米では資料のなかで、「美山錦」が最も古い品種で、その後に「出羽燦燦」。若干、性質が変わってきている。気候で変わる。酒米に限らず交配（育成・育種）した品種について、定期的にマーカーを使った品種の確認が必要でないかと思う。

委員：枝豆の研究課題について、鶴岡ではただちやまめ収穫後すぐにPプラスに入れている。車の中で常温になるが、その後、JA保冷車で輸送しているがコストがかかる。食味が落ちないような品種開発や技術開発をお願いしたい。

委員：トルコのイスタンブールに行った昨年8月中旬の頃であったが、その時期でもさくらんぼがあった。開発の余地があると思った。極早生から極晩生の品種までの品種開発を行ってほしい。

委員：トルコのさくらんぼの（1樹あたり）収穫量は日本の数倍ある。場所によっては100トン取りも可能とのこと。収量（単収）の競争はできないかもしれないが。

委員：園芸試験場の開発方向については、前回の意見を反映していただき感謝したい。

研究期間が31年度までの課題が多くあるようにみえる。報告・公表の機会がどのようになっているものか。研究成果があれば教えてほしい。発表する機会があるのか。

園芸試験場 丸山場長：研究成果は紙ベースで配布して、JA等の指導者、現場に使ってもらっている。

現在、本年度の成績のとりまとめの時期である。完了した課題については年度ごとに研究成果情報など発行しながら、現場に利用してもらっている。

委員：「山形C12号」の輸出についての課題では、どの方面（国）への輸出を考えているのか。

農業技術環境課 丸子主幹：さくらんぼの課題では、実証は台湾等の東南アジアをターゲットにしている。長期保存は花笠祭りまでの保存を考えている。

委員：来年また新しい品種が出ると思うが、東京オリンピックが開催される年である。どこの産地、地域でもネームバリュー上げることと考えていると思うが、オリンピックに向けて、海外のお客様をターゲットに、東京のアンテナショップなど売り出すチャンスだと思うが、何かしていることがあるのか。

6次産業推進課 佐藤課長補佐：東京オリパラについては、企業に対する売り込み。使ってくれるところへのPRを行っている。

農業技術環境課 結城課長：売り出しの方向としてGAPを取得することがある。園芸作物、夏野菜、例えば、すいかやメロン、枝豆などが考えられる。GAPがスタートラインであり、県版GAPの取得推進を図っているのでスタートラインに立てるよう、普及を更に進めていきたい。県内13のホストタウンでも、GAP農産物を使うとことで、啓蒙していきたい。

委員：良い機会なので是非とも。これまでの議論を踏まえて反映してもらった。研究開発推進に役立ててほしい。

報告・協議事項

1 各試験研究機関の取り組み（園芸分野以外）

委員： 水稲の関係で「雪若丸」について。先行している青森県（「青天の霹靂」）では、食味が良いが、生育が悪く収量が悪かったと聞いている。良い品種なので面積が増える技術開発してほしい。

自動の給排水装置は、1機あたり10万円。5万円であれば良いが、今は採算がとれない。北海道では夜間の水管理で冷害軽減の対策として自動管理で付加価値をつけることに取り組んでいる。自動給水で数字が具体的にでてくれば、活用できるのではないか。

農業総合研究センター 嶋津所長： 色んな品種がでてきているが、それぞれ高く売ろうとしているために作付面積が少ない。「雪若丸」は1万トンつくっているのが流通サイドから歓迎されている。収量がばらついているので安定生産の技術に向けて産地を支援したい。自動かん水について、今は高コスト。庄内と内陸2か所で実証試験している。水管理が重要と考えているので自動かん水とあわせて収量増につなげていきたい。

委員： 一点目は木材。自然エネルギーを使って暖房にも使ってほしい。できれば、これは山形が使っている自然エネルギー、何かマークをつけたりできないか。二点目はハウレンソウの周年栽培の課題（年8回、9回）。省力化とすれば、収穫等の機械化になると思うが、その辺について山形発でお願いできないか。

園芸試験場 丸山場長： 平成31年度に予定している「高収益ハウレンソウ周年栽培技術の開発」については国の農研機構と連携して事業を行う予定である。

委員： ぶどうの育種について。県産のぶどうを購入しているが、時期をずらして購入している。8月に山形県のぶどうがでてくる。ぶどうについても収穫時期の広く幅がとれるような技術開発をしてほしい。新しく特徴出せるようにしてほしい。

委員： 水田農業への質問。飼料用米について、多収性だが、葉をサイレージということだと思うが、制度（交付金）を考えたときには、恵まれないと思うのだが、制度的な見直しのようなものがあるのか。

県産米ブランド推進課 武田課長：

国の交付金があるが、見なおしという話を聞いていないが、情報収集をしたい。

畜産課 鈴木課長： ホールクロップ用で、茎が重要である酪農家からすると使いやすい。籾の部分ホールすると籾が排出されにくいので、茎葉型タイプということで、山形県に合った品種として生産者から求められている。

委員： 養豚試験場の酒粕を利用した課題について。練り粕なのか、絞り板粕なのか。河北町では循環型農業に取り組んでいる。酒粕を使ってもらっている。発酵させて肥料にした。酒粕を牛に食べさせたら最初は良く食べたが、途中で食べなくなったことがある。豚だとどうなのか。

養豚試験場 三上場長： 酒粕には色んな種類があると聞いた。酒蔵から入手して40%位に絞った後の板状のものを使った。保存性が良く、袋に入れておけば大丈夫であった。ペースト状と餌をまぜるところが難しいので課題になっている。酒粕をジュースにもどしてふりかけるとか、攪拌機を使うとか。一方で豚の志向性は良かったので、活用でき

ると考えている。

委員：前回の会議でも言ったが、他県も含めて新しい品種を開発していくのはいいことであるが、保護の問題が大事。1月に中国に行った。イチゴが300万トンで日本の20倍の量をつくっている。そのうち品種の8割が、「章姫」、「紅ほっぺ」。国内で保護できなかった。十分対策できずに何ともできない。「シャインマスカット」も海外に出ている。これは完全に違法。密輸した業者も捕まった。「山形C12号」など有望な品種なので、是非、国を挙げて保護の問題に力を入れて行ってほしい。

園芸農業推進課 舟越課長：品種保護は重要なことだと思っている。保護については最大限対策したい。①商標登録を海外で取得する。②海外品種登録を取得する。7か国程度を考えている。③名称登録。無料登録できる補助金なども活用していく。

委員：中国に行くとかかなりの頻度で聞かれるのが種苗の入手方法。日本国内で困ってしまっただけ。トルコの話でいうと、トルコ産いちごの98%はアメリカの品種である。アメリカは保護について厳しい。絶対にまねできないような仕組みにしている、栽培できないような保護をかけている。苗を売って儲けることができる仕組みがある。それを実感した。ぜひ保護については頑張してほしい。それでは、今回の意見を取り組みに反映させてほしい。